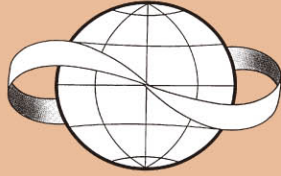


ヴェーナス通信

Venus (静脈) Venus (護美の女神)



第65号

商標登録第4882482号

発行 東多摩再資源化事業協同組合
 理事長 吉浦高志 編集長 紺野琢生
 東京都東村山市久米川町1-16-18
 TEL: 042-395-9788
 FAX: 042-395-9787

紙パック類のリサイクル

紙パックの回収率は、牛乳パック類だけを見ても四五%弱に過ぎない。このことは前号でも考察したが、行政回収や集団回収の「雑誌・雑がみ」として回収されるものが多いと言われている。

去る二月一九日の西東京市集団回収市民団体の懇談会において、アンケート調査を実施させて頂いたところ、紙パックをリサイクルしていると答えた人が九三%だった。ただその大半が雑がみとして出されるため、紙パックとしてカウントされないことになる。それでも紙パックだけをまとめて紐で結わえてあれば、回収業者が分別して流通させていることも解った。

同市では、このようにパックだけを分別できる出し方を市民に広め、選別計量して報告する方法を新年度より徹底させる方針だと言う。

紙容器類のリサイクルは、容リ法で再商品化義務のない段ボールや牛乳パックなどは製紙原料ルートに、その他紙容器は、飲料メーカーなどが経費負担して容リルートで固形燃料などに加工される。しかしその他紙容器のみを別回収するこの方法は多大な回収コストを市町村が負担することになり殆

ど実施していない。多くの市町村は、雑がみとして分別基準を決めて回収しているのが実状である。雑がみの分別基準は自治体によって微妙に違うが、禁忌品の認識を市民に徹底することが大切である。容リ法は、紙を素材にした容器に必ず紙リサイクルマーク^(紙)の表示も同時に義務付けた。このことは、小紙でも何度か取り上げたが、あくまでも紙を素材としている識別マークであり、製紙原料としてのリサイクル可能マークではない。牛乳パック等を製紙原料としてリサイクルしようとする既存の業界や一般市民には何とも紛らわしいことになってしまった。

製紙用にならないものは、禁忌品として区別してこのマークは付けないか、製紙原料か否かの区別を明確にする新たな表示を早急に示して頂きたい。

なお近年、トイレットペーパーの家庭紙メーカーでは、古紙処理工程の技術革新により、すべての紙製容器類を再生利用できる装置を備えた工場もある。

しかし、紙容器の種類を調べてみると、牛乳パックの様に表面をラミネート加工し、その上に印刷した再生処理しやすいもの、酒パックのように内側にアルミ箔を貼つ

た物、加えてプラスチックの注ぎ口のついた物、内側にアルミ箔を貼りポリエチレンなどで何層にも保護をしたLL紙パック(常温で数か月間身の品質を保持可能)、さらにはストローで飲む小型パック(開いて洗浄するのが困難なもの)、素材に未ざらしのパルプ(茶紙)を使用した物、等々多種多様に販売されている。

全て家庭紙原料として再利用可能と言っても、そのような工場はごく一部で、紙の種類や素材によってそれぞれ分類をする必要があるなど、回収ルートも多岐にくる。従って安易に紙パックの混合回収を広めるのは、全て禁忌品化しかねない危険がある。

ところが最近、回収コスト削減を計ろうとして古紙類すべてを混合回収している自治体がでてきた。この傾向が全国に連鎖したら、市民のごみ分別意識は薄れ、品質は著しく低下して、大半の古紙はその行き先を失いかねない。

長年培ってきた古紙リサイクルの技術やシステムそして文化も失い、二度と元には戻せなくなるだろう。改めて「混ぜればごみ分ければ資源」は、国を挙げて推進してきた循環社会の大原則であると声を大にして訴えたい。

(TKR)

リサイクル適性^(A)

直言拝聴

「業界の発展に向けて」



日本再生資源事業協同組合連合会
会長 飯田 俊夫

日本再生資源事業協同組合連合会 会長を拝命しております飯田でございます。東多摩再資源化事業協同組合の皆さまにおかれましては、吉浦理事長を始め日資連運営に多大なるご理解とご協力を賜りこの場をお借りして厚く御礼申し上げます。

さて、日資連は平成二〇年一二月に経産省の原局認可を受けることにより、名実ともに資源回収業界の全国団体となりました。ここに至るまでには鉄・非鉄の価格暴

落、古紙の価格暴落など業界の存続に関わるような苦難を諸先輩方が乗り越えてまいりました。これも偏に紺野武郎日資連会長(当時)を始めとした業界の皆さま方の永年に亘るご苦勞の賜物であると承知しております。これらの功績が認められて紺野武郎氏が旭日小綬章を叙勲されたことは、かつてないことでもありますが、業界人として誠に喜ばしく、また励みにもなったものと思います。

さて、我が資源業界を取り巻く状況は去年より暗雲が立ち込め始めております。

勝ち組商社の代表格、三井物産と三菱商事が目下の資源価格暴落の煽りを受けて巨額の赤字に転落することが決定的となっております。中国など新興国の経済バブルは崩壊しており需要が減少していく中、過剰な生産設備を抱える中国のダンプ輸出に歯止めが利かない以上、この流れはしばらく続くものと思われれます。

世界鉄鋼協会が集計した二〇一五年の粗鋼生産量は、前年比二・八%減の一六億二二八〇万トンに減少したとのこと。六年ぶりに前年割れただけでなく、日米欧ともに前年割れとなっており、今年に入ってからも減産傾向が続いて

います。それでも供給過剰感が解消されないとは、五割近い生産シェアを誇る中国の影響は計り知れないといったところですが、事は我々の生死に関わる問題でもあります。

さて、事業として古紙を中心に扱っている組合が多いことと思えますが、古紙市場においても徐々に価格が下がり始めていることから、回収実績の減少に追い打ちがかかる厳しい状況となっております。

一般家庭から排出される資源物の収集、リサイクルは各市区町村行政に委ねられており、地域の組合がそれぞれの立場で事業に携わっているものと思われれます。私に所属する千葉県においても市町村によつてそのやり方はまちまちであり、地域による特色が見受けられるものとなっております。では、全国団体である日資連として、逆風吹きすさぶ今、何が出来るのか？何をすればいいのか？が問われております。

まず、大前提として業界の安定を追い求めていかななくてはなりません。日資連では「認定制度」を設けて「リサイクル化証明書」が広く使用されることを願っておりますが、これに公的な規格が付与されることになれば、業界の信頼

性は大きく前進するものと確信しています。当業界はお客様が市民であり事業所であり行政であるというある意味全てがステークホルダーになり得ることから、公的規格の取得はこれからの重点目標になるうかと考えております。

この規格に関しては、経産省と協議を重ねており、吉浦理事長を始めとした日資連会員の皆さまにご協力頂いて是非とも成し遂げてまいりたいと考えております。

我々が扱う資源物価格は、世界経済の影響を受けるようになってしまいました。

コントロールが一切利かない上にももの数カ月で数十%も価格が動く商材を我々は扱っています。各行政との委託や補助については年契約で行っている市町村が大半かと思えますが、日資連といたしましては関係省庁との連携及び適宜提言を関係団体とも協力しながら積極的にすすめていきたいと考えております。

しかしながら、昨今では行政関連の入札に関して常軌を逸した高値入札がまかり通っております。全国の会員組合においては、各自治体との間で協定等を締結し、補助事業を行っている会員が数多くあります。また、行政回収を受託

して事業を行っているケースもまた多くございます。入札案件における利益を度外視した行為は、自らの首を絞めることに繋がるだけでなく、全国で事業を行っている会員にも悪影響を及ぼすものと考えております。暴利を貪っていくことは誠に慎むべきですが、適正な価格を追い求めることは業界の安定のために重要なことだと考えております。この問題につきましても、関係団体と連携しながら今後も努力を重ねてまいります。

しかし、一番の問題は資源物収集量の減少が顕著になってきていることにあります。長引く景気の低迷が最大の原因とは思いますが、取扱量の減少も高値入札の原因の一つとも思っており、かなり厳しい状況であると認識しております。産廃業界や鉄スクラップ業界では合併による資源メジャー化を模索しているようです。時代の流れなのかもしれませんが、永年地域社会における資源リサイクルを担ってきた我々が、今まで以上に地域に根差した活動を行い、地域に信頼される業界になっていかななくてはなりません。

また、我々が扱う資源物は排出者の分別によってある意味支えられていることを忘れてはなりません。

日本。日本の資源物（特に古紙）が世界で通用する最大の理由が分別にあります。各自治体では分別排出を市民に求めているケースが圧倒的に多いわけですが、その中で混合収集が若干見受けられてきていることは注意深く観察していきたいと考えております。収集コストのみで考えた場合、分別収集より混合収集のほうが圧倒的に楽なのかもしれません。しかし、その荷物を受ける問屋業界での選別加工には限界がありますし、当然ながら市況によって行き場がなくなる可能性もあります。このような流れは業界全体の問題として阻止していかなくてはなりません。そして、我々が根絶を目指している古紙持去り行為についての取組みは、問屋業界との連携の中で更に推し進めていかなくてはなりません。我々が声を大にして訴えていかなくては地域の信頼を得ることは出来ないからであります。古紙収集にはいくつもの集荷ルートがあるわけですが、市民は都合のよいルートを選択して排出する時代になってまいりました。その大部分において私どもが関わっているわけですが、持去りという市民のリサイクル意識を阻害し、環境行政も無視するルートについては断

固として拒絶していかなくてはなりません。道末だ半ばではあります。皆さまのご協力のもと解決に向けて活動してまいります。

また、作業員・運転手の確保に困っているという話を最近組合員よりよく聞くようになってまいりました。中型免許制度と、限定免許によって若い人材の確保がますます困難になってきたと感じております。

そういう中で優秀な人材を確保していくためには業界の信頼性を上げるだけでなく、組合員企業の基礎体力がアップしていかなくてはなりません。

日資連は業界の全国団体として、業界の健全な発展を願って活動しております。その中でも次代を担う人材の育成と確保が重要なテーマとなっております。

各会員組合においても青年部が組織化されているところが多くあるかと思いますが、日資連においても青年部があり創立三〇周年を過ぎております。

私は社業と並行して青年部活動と地元組合理事を兼任し、日資連青年部にも所属して今日に至っております。その中で業界の諸先輩方に組合運営について様々なアドバイスを受け、且つ人の繋がりを

得ることができ、それが私自身の現在の職務におけるモチベーションになっております。

日資連青年部は現在、紺野琢生部長のもと精力的な活動をされており、日資連の様々な事業を支えるだけでなく、被災地支援等についても親会では出来ない直接的なボランティア活動を行うなど、今までにない活動の幅を見せております。私たちの次世代に皆さまからの温かいご支援をこの場を借りてお願い申し上げます。

また、これまで申し上げてきましたとおり、私どもの業界は「市況の乱高下」「業界の再編」「流通の変化」「取扱品目の減少」「行政との関係性」「業界の信頼性」「人材の確保と育成」など多くの問題を抱えております。これら諸問題の解決にあたっては、東多摩再資源化事業協同組合の皆さまを始めとした全国の業界関係者の皆さま、関係団体の皆さま、国を始めとした行政の皆さまと資源物を分別排出してくださる市民の皆さまの協力が是非とも必要でございます。

日本再生資源事業協同組合連合会は業界全国団体として、これからは皆さまのお役に立てるよう活動してまいりますので、今後ともよろしくお願い申し上げます。

混合収集された古紙の 処理について考える 〜鹿児島市・熊本市の視察から

古紙の混合収集の是非については、本紙で何度か警鐘を鳴らしてきた。収集の手間やコストの削減だけを考えると、荷物の選別は問屋任せ、古紙の品質も相場も考えない、無責任な収集システムについて問題視してきたわけである。

ただ、混合収集を実施するにあたって、地元の古紙問屋としっかり手を組み、選別コストをかけ、長年取り組んでいる自治体も全国には存在する。そのモデルケースとして九州の鹿児島市、熊本市に注目し、三月末に視察を行った。鹿児島市は週二回、ステーションで古紙三品の混合収集を行っており、五カ所の古紙問屋で荷受けを行っている。熊本市では週一回、二カ所の古紙問屋で受け入れを行っている。

事前に両市役所の担当部署に表敬訪問をし、収集の状況等についてヒヤリングをさせて頂いた。そして、翌早朝から収集の現場を視察した。収集に関しては、全てパッカー車で古紙三品同時に回収を行っている。両市とも直営回収と一部民間委託をしている。三人乗

車で、二名が積み込みを行っているが、特に左右に分けてなどはず、無造作に放り込んでいる様子だった。このまま巻き込むと後の選別は大変だと感じた。



市民には分別をお願いしているが、やはり混合収集のせいか段ボールの混在も多い。



パッカー車で古紙三品を混合で巻き込む。

下ろし先である、民間の古紙問屋を二社にお邪魔させて頂き、選別作業を見学させて頂いた。一旦下ろし場に開けられた古紙は、掬

いづらい段ボールも混じっているため、挟み込みの出来る特殊なシヨベルローダーで掴んでホッパーに投入され、コンベアで選別ラインまで上げられる。



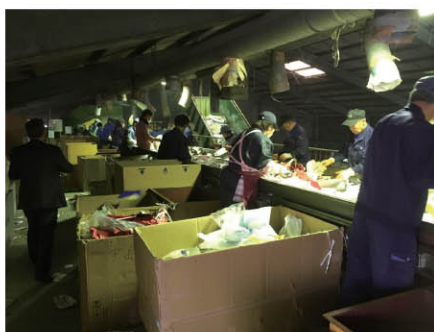
下から掬い上げ、上から挟み込むことの出来る特殊なシヨベルローダー

二階部分に設置された選別ラインは長さ四〇メートルくらいのラインに二〇名の選別作業員が並んで手際よく仕分けを行っていた。まず始めにひも切り、不純物の選別、段ボールの選別、新聞の選別、最後に雑誌、雑誌が流れ落ちる仕組みだ。分けた古紙の投入口は



パッカー車から開けられた古紙。新聞も段ボールも雑誌も混ざりあって選別は困難を極める。

一階部分の品目別の置き場に落ちるようになっていた。その他、段ボール箱を何箱か脇に置いておいて、選別しきれなかった分をまた先のラインで選別をする。



段ボールが混入しているため、ヒモ取り機も使えないので、人海戦術によりひも切り選別をする

国内メーカーに納入する品質を確保するには必要だとのことだった。当組合でも行政回収の古紙は全品国内メーカーに納入しており、品質の保持は絶対条件となる。また、広大な土地建物設備を備えた選別ライン施設、通常の五倍以上を要する人員や特殊な重機、などを確保するのは都市部では困難で、莫大なコストも負担して頂く必要がある。今後の輸出古紙の品質強化を考えると、実施するならば、安易に進めるべきではなく、回収業者、古紙問屋と行政がしっかりと手を組んで慎重に取り組んでいくべきである。

(TKO)

「第23回TAMA
とことん討論会に参加」

平成二八年三月六日、毎年恒例となつてゐるTAMAとことん討論会に参加しました。私たち回収業者が市民の皆様の日々の活動やご苦労を知ることができ、数少ない場だ。今回は多摩市にあるエコにセンターにて、陶磁器製食器と3R・食卓から考える「もったいない」をテーマだった。

基調講演は「陶磁器製食器のリサイクルとアップサイクル」を主題に元岐阜県セラミック研究所主任専門研究員の長谷川善一様。行政からの報告は国分寺市のごみ減量推進担当係長の山田周様。市民団体からの報告は小金井市消費者団体連絡協議会の柏原君枝様、最後に課題提起として主催者でもあります、東京・多摩リサイクル市民連邦事務局長の江尻京子様からの報告が行われた。パネルディスカッションは講演いただいた四名に加えて当組合専務理事の紺野琢生を交えて行われた。当組合でも以前に陶磁器製食器のリサイクルを事業化することができな

ことを踏まえて現在、地元各市で行つてゐるリサイクルフェアでの食器を含む雑貨回収の現状を専務理事より報告した。食器のリサイクルはコスト面の問題等、非常に難点が多いですが、市民の方々を中心に意義深い活動が行われていることと大変感銘を受けた。(福田)



ダイナックス都市環境研究所山本耕平所長のコーディネートのもと、活発な議論が展開された

東京都リサイクル事業協会
タイ視察研修に参加

去る二月一七日(水)〜二一日

(日)、同協会のタイ視察研修に当組合から吉浦理事長と共に参加した。まずは、製紙メーカー、サイアムクラフト社を視察した。タイ国内の古紙を五〜六〇%、日本の段ボール(JOCC)を三〜四〇%、

残りは欧州などから輸入しているとのこと。JOCCは品質が良いので、Kライナーに使用しているとのことだった。



サイアムクラフト社の最新鋭抄紙機PM16の前で集合写真

その後、日高スズトク(タイランド)株式会社に向かった。同工場は、日本国内で総合リサイクル事業を行っているスズトクグループとタイで金属リサイクル事業を長年行っている日系企業の日高洋行グループとの合弁会社である。家電や車の解体等はしておらず、一帯に多数ある工場等からスクラップを買取りをしているそうだが、家電や車はほとんどがリユースに回っており、こちらには入ってこないとのことだった。

一九日はバンコク都環境局を表敬訪問し、担当の方からバンコクのごみ事情について伺った。二〇一三年のごみ収集量は一〇一六七

トン、リサイクル率は二六・五%だそう。医療系などの危険な廃棄物を適正処理でゼロにすることや達成できていないリサイクル率の向上のための施策や取組について伺った。処理工場に行く道中、いわゆる建場業者が乱立していて、それぞれペットボトルやプラスチックなど、ごみ収集車のドライバーが有価物を途中で下ろしてお金にしているとのことだった。タイでは、どの会社でも賃金が安く、しかも最低賃金に近い状態で、転職率も高いそう。それゆえ、こういった従業員による横流しも仕方ないのだろうか・・・

その後、民間の再資源化問屋であるワンパニー社を訪問した。バンコク都の環境局ともタイアップして様々な事業をしているそうで、処理場を案内してくれた環境局の方々が全員こゝまでアテンドしてくれた。古紙、金属類、プラなど様々なものを買取り取っている。相場的には、日本国内よりも少し高いようだった。今回の視察を通じて、タイでのリサイクル事情は、日本の何十年前のリサイクルに似ているように感じたが、静脈産業を含め経済活動には活気と勢いを感じた。(TKO)

段ボール リサイクル特集

段ボールの分別について

まずは、段ボールの歴史について・・・


段ボールは、19世紀のイギリスにおいて当時流行していたシルクハットの内側の汗を吸い取るために開発され、のちに包装資材として利用されるようになったのは、アメリカ合衆国においてガラス製品の包装に使用されたのが始まりだそうです。そして、製紙メーカー「レンゴー株式会社」の創始者である井上貞治郎が、日本において現在用いられている「段ボール」を作成し、その名を付けました。その後、用途に応じて様々な工夫がされ、今ではいろいろな段ボールが市中に出回っており、様々な用途で使われています。

家庭に浸透する『段ボール』

昔は、段ボールと言えば、引越しをした時や電化製品を買った際にまとめて出るもので、家庭というよりは事業所や工場から発生するのが圧倒的でした。今でも家庭より事業所等から出る方が断然多いですが、段ボール自体の進化や、ライフスタイルの変化により家庭に入ってくる段ボールが非常に増えています。例えば宅配ピザのケースに使われたり、インターネットショッピングの普及により段ボールケースで何でもものが自宅に届いたり、まとめ買いやレジ袋の削減で段ボールに買ったものを入れて持ち帰るなどなど。こうした普及と共に、市民の皆様にも段ボールの分別についてより一層のご理解を深めて頂きたいと思います。

そもそも、段ボールとは？

中芯と呼ばれる波状に加工した紙をライナーと呼ばれる外側の板紙で挟んだ構造のものを段ボール原紙といい、これを箱型にしたものが段ボール箱である・・・

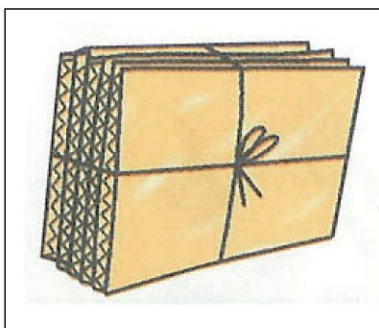
横から見ると、 こうなっている紙が段ボールです。

つまりは、中が波々になっている箱を段ボールと言います。よく勘違いをされて混入してくるのですが、お菓子の箱などに使われているいわゆる「ボール紙」は、中が波々になっていませんので、段ボールではありません。業界的には、並板紙とか下ボールと言って、段ボールの混入物という扱いになりますので、混ぜないでこれらは雑がみとして出すようにしましょう。

段ボールの出し方

段ボールは、積み込み時にかさばるので、潰してひもで縛って出すようにしましょう。その際、箱型にするために貼り付けたガムテープやホッチキスは無理にとらなくても結構ですので、けがをしないように潰して下さい。また、隣のページに様々な段ボールの禁忌品をご紹介しますので、それらは混ぜないで、可燃ごみで出すようにお願いします。

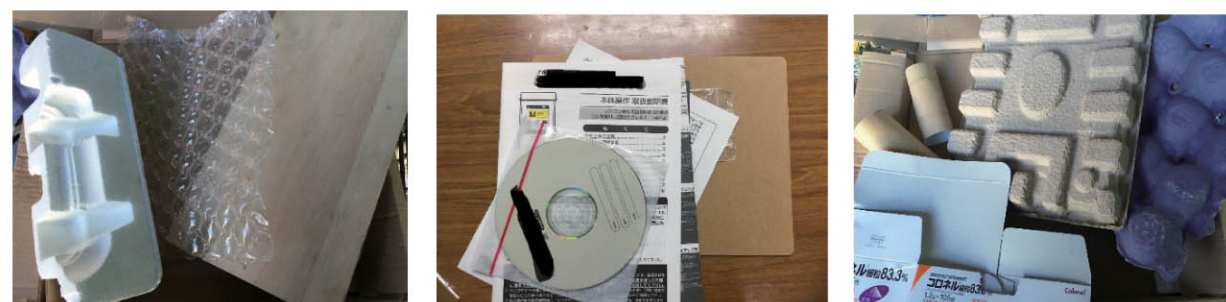
また、最近雑がみ類に段ボールを混ぜて出されるケースが非常に増えています。段ボールは雑がみに混ぜないで段ボールで出しましょう。



⚠ 段ボールの禁忌品について

様々な段ボールの中には、製紙原料としてリサイクル出来ないもの（禁忌品）があります。ここで紹介したいと思います。

- ①まず、段ボール以外のものは混ぜないようにしましょう。
※左のページでもお話ししたボール紙や、段ボール箱に入っている説明書や発泡スチロール、パルプモールドと言われる緩衝材（卵パックなど）は混ぜないようにしましょう



緩衝材や板切れ 取扱説明書やCDなど 紙管、パルプモールド、ボール紙

- ②油の染みだもの、汚れているものはNG
工場などで機械油の染みだもの、家庭で油や食品で汚れたもの（ピザの箱など）は混ぜないで下さい。
- ③クール便などに使われるアルミ付きの段ボールもNG
- ④ロウ引き（どぶ付け）されている段ボールもNG
特に現在、オーストラリア産ブドウや米国産ブロッコリーの梱包によく使われており、重大なトラブルを招いています。裏面にワックスが塗ってあるのがそうです。注意して下さい。



②宅配ピザの箱は汚れや油が... ③果物や魚を入れるアルミ付き ④問題になっているロウ引き段ボール

※その他、特殊な加工がしてあるものや工作、イベント等でペンキを塗ったり紙以外のものが張り付いてしまっているようなものなどももちろんNGです。適切な分別で、円滑なリサイクルの推進にご協力をお願いします。分からないことがあれば、東多摩再資協にお気軽にお問い合わせください。

リサイクル事業のあり方と 再生资源市場動向について

去る二月一六日開催された同フォーラムは、はじめに、環境省廃棄物・リサイクル対策部の和田篤也課長から「一般廃棄物の適正処理推進について」の講演があった。まず、近年問題となつている一般廃棄物の処理に関する諸課題の具体的な話があつた後、さらに、次の点について解説があつた。

平成二〇年六月一九日環境省課長通知(6・19通知)については、市町村に一般廃棄物処理計画の策定を義務付け、自ら処理を行うことと、委託した場合でもその全責任は市町村が負うこと。

平成二六年一月二八日の最高裁判決とその実効については、市町村長が一般廃棄物処理計画を踏まえ、既存業者への影響などを考慮せず、新規許可や更新など行った場合、既存業者の訴えにより取り消される可能性があること。

同年十月八日環境省部長通知(10・8通知)は、最高裁判決を受けた形で、市町村長の責任を強調し、「委託料が受託業務を遂行するに足る額であること」を特筆し、あえて競争入札などで既

存事業者の業を妨げないよう注意が必要などとしている。

最後に和田課長は、「一般廃棄物の処理やリサイクル事業は、市場競争原理と一線を画すことが望ましい」と言うことだ」と結んだ。

質疑応答で、「ある自治体が、指名入札で行政回収業者を選定しているが、年々競争が激しくなり、逆に質が悪くなっている。我々地元業者からこの通知や最高裁判決を伝えても構わないか？」の問いに、「最近そういう問い合わせが多くなっている。担当部局止まりになつているところが意外に多いので、首長に読んでもらうよう働きかけるのも効果があるようだ。」



和田篤也 課長

次に(公財)古紙再生促進センター業務課の吉田和正主査より、「古紙の市場動向」について基調報告された。

世界各地および日本の紙・板紙生産、日本の古紙回収・利用・輸出

推移、東南アジアの古紙利用などのデータを示し、傾向と今後の課題を提言した。

中国・東南アジアの紙生産は、横ばいか微減。板紙は変わらないが情報用紙は減少と予想される。我が国でも同様な傾向だが、近年のIT機器の普及により新聞雑誌の生産やその回収量は減少している。段ボール原紙の生産は微増。



吉田和正 主査

日本の古紙は二〇%以上輸出しなければ余剰となるが、中国に対する輸出量が年々減少して、その分東南アジアにシフトしている。輸出は、古紙の品質維持が優位性を保つ決め手になっているが、最近中国からも品質低下を指摘する声がかかるという。

主査は、「輸出古紙の品質低下が進めば、日本の古紙は行き場を失い大余剰化になる。」と懸念した。最後に関東故繊維協会の中野聰

会長より、「故繊維の市場動向」について報告された。



中野聰恭 会長

現在の価格暴落は、バブル崩壊と言うよりも、その前四五年間の異常な流通状態の反動だと思ふ。品質はどうでもとにかく品物が欲しいと、仕入れ競争輸出競争をしている間に、東南アジアの市場は激変してしまつた。

故繊維は、正確な発生量や流通過程等も解らず、殆どが推定に過ぎない。

また故繊維は、回収しても原材料として再利用されることは殆ど無いし、大手ユーザーも皆無だ。繊維製品自体も、複雑多品種にわたりファッション性や流行さらに気候風土などでも変化する。

「故繊維の流通は、多様な目的に合った選分による高品質な品物の提供に尽きる。」と強調された。

(TKR)

常総市のあの場所へ！

昨年九月の関東東北豪雨により甚大な被害を受けた常総市に青年部を中心に復興支援活動を行ったことは前回号でご報告させて頂きました。その際に被災がれきの投棄場所になっていた河川敷が、本日は花見の名所なんですと地元の方が語っておられたことを思い出し、ちょうど桜が満開の時期にあの場所へ行ってみました。

もちろん、がれきはすっかり撤去され、そこはまさに絶好のお花見場所になっていました。



同じ場所で撮りました



あの白い家と堤防工事現場



朝早かったのですが、まだ花見客が二〜三組陣取っているだけでしたが、この後、きれいに戻った河川敷のうたげの様子が目には浮かぶようでした。

この後、鬼怒川の堤防が決壊した現場も立ち寄ってきました。ようやく通行規制が解除になりましたが、まだまだ復旧作業の最中でした。あの白い家だけがぼつんと取り残されたこの場所が今後どのようにに復旧していくのか、引き続き見届けたいと思います(TKO)

平成二八年熊本地震への支援活動

まずもって、この度熊本を始めとする九州地方を襲った震災の犠牲者の方々へのご冥福と、被災された皆様へのお見舞いを申し上げます。

東多摩再資協では、発災当初に不足していた水とマスクをいち早く支援物資として日資連青年部を通じて送った他、組合員各社の協力を得て、日本赤十字社と、日資連を経由して熊本の資源組合に義援金を送付しました。

その後、五月八日(日)〜一日(火)にかけ、現地に入り、ボランティア活動をして参りました。今回は、世田谷リサイクル事業協同組合の松本さんと、奈良県資源回収事業協同組合の中山さんと一緒に今後の支援活動の事前視察を兼ねて訪問しました。八日の夜、福岡で支援活動をしている同業者の(有)日本紙料の有光専務とコネクタを取り、今後の支援活動について情報交換をしました。また、現地から依頼のあった片付け用の段ボール箱を寄付して頂きました。九日は早朝より熊本市内にて、地震で壊れた家財道具の撤去

作業のボランティアを行いました。



熊本市災害ボランティアセンターにて。熊本市内、高知県から支援に来た女性と組んで5人で作業しました。

そして、家財道具の整理用の段ボールを中山さんのご親戚に届け、また被害のひどかった益城町や熊本市内を視察してきました。



その後、日資連の西原副会長の会社にお邪魔し、お見舞い申し上げますとともに、現況についてお話を伺って来ました。通常の資源物の処理に加えて、被災ごみの方が大量に発生していて、かなりお忙しい状況でした。自宅等が被災されている従業員の方も多く、今後継続して連携を取りながら支援を継続してまいりたいと考えています。頑張ろう！熊本！(TKO)

リサイクルセンター 構内作業員安全講習会

去る三月二十六日(土)、リサイクルセンターの構内作業者を対象にした安全講習会を東村山市立中央公民館で開催した。

リサイクルセンター責任者の水野理事の開会宣言があり、小平センターの加藤主任が前に立ち、東多摩再資協安全行動宣言を全員で唱和した。吉浦理事長から日頃の安全作業に対する感謝と改めて気を引き締めて作業にあたって頂きたいとの挨拶があった。

紺野専務理事と水野青年部長より、構内作業者の心得と構内での優先順位について説明がされた。



今回の安全講習会は、現場責任者・主任からのヒヤリングと、事前のアンケート調査から、「歩行者と重機の接触を防ぐために」というテーマでテーブルディスカッションを行うことにした。各テーブルに小平センター、柳泉園、中島町それぞれの構内作業員が混ざるように配置し、重機オペレーターも一名座ってもらった。テーマに沿って、歩行者から見た重機、オペレーターから見た歩行者の動き等をフリートークしてもらった。

終わりの見えないほど白熱した意見交換が行われ、リサイクルセンターの責任者・主任に各テーブルについても個別に司会役を



頼み、意見をまとめてもらい、代表者に発表してもらった。歩行者、重機オペレーターがお互いに自分に気が付いているだろうという意見が一番多かった。どちらかが優先という考えではなく、お互いに譲り合う思いやりをもって作業することが大事だとみんなで確認しあった。

最後に小畑副理事長より講評があり、安全を優先して作業にあたるようにまとめの言葉を頂いた。講習会参加者全員に東多摩再資協の講習会修了証に捺印した。今後とも心身の健康と安全第一で作業に取り組んでまいりたい。

(水野K)

【行政回収作業員の声】

弊社、JP資源(株)は、当組合の事業活動である、東村山市・東久留米市の行政回収に携わらせて頂いておりますが、市民の皆様は回収作業員が普段どのような思いや気持ちで、回収をしているのかを知って頂きたく、この誌面を、お借りしてご紹介したいと思います。

【行政回収中、『ご苦勞様』や『いつもありがとうございます』と声を掛けて頂けて、とても嬉しいです。】歩行者・自転車など通行の邪魔にならないように回収し

ていますが、稀に通行の妨げになつてしまった時に回収作業が終了するまで待つていてくれる方が多く、とても感謝しています。】といった声が回収作業員より上がっております。

市民の皆様はルールを守つて頂けているように回収作業員も決められたルールに従つて日々、回収作業を行っております。邪魔な場所に車が停車して、不愉快な思いをさせてしまう事も多々あるかと思いますが、市民の皆様のために日々頑張つている回収作業員を暖かい目で見守り、応援して頂ければ幸いです

(JP資源 栗原)

雑がみ回収袋を試作しました。

当組合では、市民の皆様から要望の多い雑がみ回収袋をこの度試作致しました。一般販売はまだしておりませんが、イベント等で配布し、可燃ごみの中にまだ2割程度出されているという雑がみ類の回収率向上に寄与したく思います。



昨年度の古紙持ち去り

GPS追跡調査について

昨年度も当組合では、相変わらず横行している資源持ち去り対策として、関東製紙原料直納商工組合（関東商組）や地元各市と協力し、GPS追跡調査を実施した。各市ごとの実施回数は年間合計七回で、各市毎の内訳は東村山市が二回、東久留米市が二回、西東京市が一回、小平市が一回、清瀬市が一回。このうち、東村山市と小平市で古紙持ち去り業者が出現し、都内の買取業者に持ち込んだため、関東商組及び市役所の担当者として、当該買取業者をヒヤリング調査し、今後古紙持ち去り業者から買い取らない旨の回答を得たが、どこまで信用出来るか分らないのが現状である。当組合では、今年度も引き続き、資源持ち去り対策のために、関東商組や地元各市と協力しながら、GPS追跡調査を実施していきたい。

東多摩再資協青年部

第一四回総会

平成二八年四月三〇日、所沢キ

ヤンティーナにて当組合青年部の総会を開催しました。



水野青年部長のやる気にあふれた挨拶の後、すべての議案が滞りなく可決承認されました。今年は、子育て世代をターゲットにリサイクルに関心を持って頂けるような企画をやっていききたいと思えます。また、先代の部長を努められた福田雄二氏が東資協の第七代青年部長に就任したお祝いに、吉浦理事長と青年部からそれぞれ記念品が贈られました。また、日資連青年部長を続投することになった青年部紺野監査にも記念品のサプライズがありました。私も副部長として、青年部活動をますます頑張っていきたいと思えます。（吉浦亜）

福田雄二氏が東京都資源
回収事業協同組合青年部長に

三月一七日に行われた、東資協青年部臨時総会にて、当組合の前青年部長だった福田雄二氏が東資協第七代青年部長に就任した。数々の講演会や勉強会に参加し見識を深め、各市リサイクルイベント等に積極的に参加し、市民交流を大事にしてきた活動が認められ満場一致で部長に就任された。業界を担う青年部をこの先も続いていくことの大切さを語り、任期中力の限り部長職を全うする決意を表明し、前部長より二三年続いた大切なバトンを受け取った。（水野K）



●●春～夏の各市環境関連イベントに出展します！●●

今年の春～夏の地元各市で開催予定の環境フェスティバル等は、次の通りとなっています。当組合も例年通り出展させて頂き、まだまだ使える育児用品、おもちゃ、ぬいぐるみ、食器類、古着、かばん、揃っている靴などの小物雑貨類の回収や分別ゲームを行います。是非遊びに来てください！

- ①東大和市環境市民の集い
6月5日（日）午前10時～午後2時30分、東大和市役所
- ②東久留米市環境フェスティバル（初日） 6月11日（土）午前10時～午後4時、
（2日目）6月12日（日）午前10時～午後3時、両日とも東久留米市役所
- ③清瀬市環境・川まつり
7月23日（土）午前10時～午後3時、台田運動公園・柳瀬川河川区域
- ④こだいら環境フェスティバル
9月10日（土）午前10時～午後2時、中央公園他・ふれあい下水道館

熊本・大分地区の大震災に

組合員全員で義捐活動中

四月一四日夜の前震で始まった同地区の大地震は、本震余震と収まることを知らず猛威を振るった。五年前東北地区の大震災では、人と車両を動員して復興支援と募金活動を繰り返し、昨年九月の関東東北豪雨被害でも、三日後に常総市に入り復興支援を開始した。今回は、直接のボランティア活動が困難で、義援金の募金を主に活動した。組合員各社の自主的な活動によって、四月二五日に組合でまとめ、日本赤十字社などに七〇万円を送った。その後も日資連九州支部の被災者に対し募金活動を続け、青年部を中心に人的な復興支援も継続している。(九頁参照)

行事・行動

【平成二八年一月】

- 四日：仕事始め
- 五日：各市挨拶回り
- 七日：東京都中央会・新年会
- 八日：小平RC責任者会議
 - ：古紙センター新年会
- 十一日：定例理事会
- 十二日：青年部会議
- 十四日：横須賀資源組合新年会

- 十九日：東久留米市環境F実行委
- 二一日：小平市Rきゃらばん
- 二二日：組合新年会
- 二五日：業務委員会
- 二七日：東村山市業者連絡会議
- 二九日：東村山市回収協議

【二月】

- 五日：小平RC責任者会議
- 六日：東資協新年会
- 十一日：定例理事会
- 十五日：GPS調査(東村山市)
- 十六日：東リ協会研修会
- 十六日：東久留米市環境F実行委
- 十七日：東リ協会海外研修
- 十九日：西東京市集団回収団体意見交換会
- 二二日：青年部会議
- 二三日：官公需共同受注検査
- 二四日：回収作業員懇談会
 - ：牛乳パック連研修会
- 二六日：GPS調査(東久留米)

【三月】

- 二日：官公需共同受注検査
- 五日：小平RC責任者会議
 - ：青年部会議
- 六日：多摩とことん討論会
- 九日：小平市ごみ減量実行委
- 十一日：定例理事会
- 十五日：東久留米市環境F実行委
- 十六日：東村山環境標語表彰式
- 十八日：東村山市廃棄物減量審
- 二三日：集団回収・業務委員会

- 二四日：小平市Rきゃらばん
- 二五日：GPS調査(清瀬市)
- 二六日：RC作業員安全講習会
- 三〇日：組合研修会
- 三一日：GPS調査(西東京市)
 - ：小平RC役員会

【四月】

- 八日：小平RC責任者会議
- 十一日：受注検査委員会
 - ：定例理事会
- 十二日：青年部会議
 - ：広報委員会
- 十六日：東久留米市環境F実行委
- 二〇日：財務委員会
 - ：業務委員会
- 二一日：小平市ごみ減量実行委
- 二八日：青年部総会

【五月】

- 五日：財務委員会
- 六日：小平RC責任者会議
- 十一日：東村山市RF実行委
 - ：定例理事会
- 十二日：広報委員会
- 十三日：第二三回通常総会
- 十七日：東久留米市環境F実行委
- 二一日：東資協通常総会
- 二六日：古紙センター理事会
- 二八日：多摩市協同組合総会
- 二九日：小平市ごみゼロフリマ
 - ：西東京市環境フェス
- 三一日：東京都中央会通常総会
- 三一日：東リ協会総会

編集後記

まず、平成二八年熊本大地震で被災された皆様に心からお見舞い申し上げます。その後も余震が続き、予断を許さない状況ではあります。が、私たちも出来る支援を続けていきたいと考えておりますので、一緒に頑張っていきたいと思います！

また、直言拝聴をご寄稿頂いた日資連飯田会長、ありがとうございます。また、認定制度の公的規格化プロジェクトを筆頭に回収業界の今後のために、私も青年部長として頑張っておりますので、二人三脚で宜しく願います。

リサイクル掲示板でも取り上げましたが、ロウ引き段ボールが重大な品質障害をもたらすとして国内製紙メーカーで問題になっています。私たち回収業者も、回収の際に十分注意して積み込みをし、問屋でも細心の注意を払って選別しておりますが、それでも混入をゼロにすることが出来ません。やはり、排出段階での水際での選別が欠かせません。このロウ引き段ボールに関していえば、スーパ一から発生するのがほとんどですが、ご家庭でもリサイクル掲示板を参考にさせて頂いて、段ボールの分別排出にご協力を頂きますようお願い申し上げます。(TKO)